後方の空白

古戯都十全

白い横長の空白が私の後方にある
何もない白い空白の
その中央に円形の窪みが掘られる
窪みは空白の白さに溶け込んで
どこにあるのかわからない

この空白に一個大隊を配備して私を砲撃し
跡形もなく粉微塵にしてみたらいいだろう
私の細かい肉片が後方まで飛んでいき
銃砲にこびりついて大隊が基地に帰るまでに渇いて朽ち
勲章代わりのシミとなろう

空白に熊をおびき寄せることも手段の一つである
自然の脅威に私を襲わせ、己が手を下さない

その小賢しくも巧緻な手管に舌を巻きながら
私は面と向かって熊に屠られよう

空白にやってきた盲目の老婦人の杖に
毒針が仕込んでいたとはまた味なことをする
私が婦人の先導役を買って出たとき
それを最後の善行にすべく、杖の先の針が私の踵を貫く
毒が体を回り終えるまでに
私は善行の味をねぶり尽くすだろう

だが小細工は弄するな
お前が私を撃つために作られた空白だ
さっさと撃て！
流れ出た私の血液が空白の中央にある窪みに溜まり
完全に固まると新たにお前の立つ場所が浮き上がる
お前に撃たれることこそが私の最後の善行だ

だから早く撃て！
私を撃って自分の立ち位置を定めろ！
撃つかどうかでまごついているようでは
俺の気が変わり後ろを振り向き
お前を撃ちたくなるかもしれない
だから早く撃て！
後方の空白はお前のためにある